

背景・目的

地域と連携した森林づくりについては、従来から取り組んできたところですが、平成25年度の一般会計への移行後は位置付けが高まり、また、平成30年12月には、森林経営管理制度や森林環境譲与税が制定され、より以上に管内町村や振興局森林室等の民有林と一体となった地域の森林づくりに取り組んでいく必要があります。

今年度の民有林と連携した取組みを行うため、各町村の林務担当者と情報交換を行いました。その中で数多くの地域課題が見えてきましたが、特に共通していたことは、伐採と造林は同じ業者でも別契約としていること、ドローンを導入するメリットや活用方法が分からないということでした。



当署では、今年度、一貫作業システムの実施を予定していることや日常の業務でドローンを活用している状況にあったことから、管内町村の林務担当者や振興局森林室等を参集した勉強会を実施することとしました。

内容・成果

勉強会では、一貫作業システムとして、今年度取り組む事業地の概要説明をはじめ、模式図を用いた作業期間の圧縮による低コスト化などのメリットやコンテナ苗の植栽における低コスト化と作業の省力化のほか、国有林での取組事例を交えて説明を行いました。

また、ドローンについては、当署で活用している機種の説明、操作方法のほか、徒歩では時間を要する林道の被災状況の確認や人工林の詳細を把握することによる情報共有などの使用事例、また、専用ソフトウェアの使用による面積計算といった活用事例などを紹介した後に、実際にドローンを起動させて使い方の説明を行いました。

参加した町村林務担当者からは、多くの質問のほか、熱心にメモを取っている様子から、取組みの一部について理解していただけたのではないかと感じました。

この勉強会を開催して、地域ニーズを的確に踏まえた情報提供を心がけることにより、町村林務担当者の林業先進技術や知識の醸成に繋がったのではないかと考えています。

勉強会終了後には、参加しての感想や今後の要望を含めた質問形式（一部記述式）によるアンケートを実施したところ「ドローンの活用方法」や「造林事業の低コスト化」の取組みへの関心の高さが示されました。

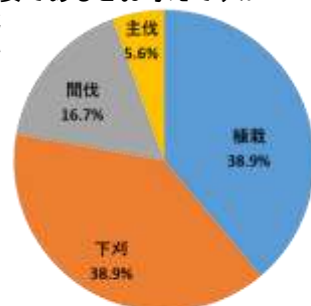


(アンケート抜粋 問6)

低コスト化や省力化等でどれが必要であるとお考えですか

- 植栽
 - 下刈
 - 間伐
 - 主伐
 - 路網
 - その他
 - 特に必要ない
- (複数回答あり)

植栽	7	38.9%
下刈	7	38.9%
間伐	3	16.7%
主伐	1	5.6%
路網	0	0.0%
その他	0	0.0%
特に必要ない	0	0.0%



今後に向けて

今後の課題として、今回のアンケート結果により関心の高かったことについて、取り組んでいくように考えています。具体的には、「ドローンの活用方法」については、法規制の問題や制度に関する情報提供、操作方法の支援など、今後少人数でも対応できる場を検討したいと考えています。また、「造林事業の低コスト化」については、造林コストの低減に向けた低密度植栽や下刈の省力化の取組みについて、当署の実情に沿った勉強会を開催できるように、引き続き町村林務担当者や振興局森林室等との関係機関と連携しながら、地域の森林づくりに貢献したいと考えています。